

## 平成 30 年 5 月 21 日 市長定例記者会見 会見録

### 【市長】

今日の話題、健康長寿のまちをつくるということですが、返す返す残念だったのは、先週、私たちの世代にとっての大スター西城秀樹さんが 63 歳の若さで亡くなったという訃報に接したのですが、もうメディアの話題になっているので多言を申し上げるつもりはありませんが、健康の大切さということをつくづく感じます。

新御三家の中でも一番健康そうだったというか、パワフルだったし、エネルギッシュだったし、私と 7 つ違いなんですけども、私が中学 1 年生の時、20 歳くらいですよ。あんな風にかっこよくなりたかったな。女子からも、もちろん人気があったわけなんですけども、女子にもてたい中学生にとってはすごく憧れのスターでしたね。その元気な、そしてメッセージも前向きにヤングマンの歌詞にもあるように、“君も早く元気だせよ”という応援をしてもらったということ振り返っても残念だなという風に思っています。

ぜひ記者の皆さん西城秀樹さんと同世代とは言いませんが、だいたい同じ。本当に人間ドックには欠かさず行って、やはりヘビースモーカーだったようですね、やはり過信があったのかもしれない、49 歳のときと 56 歳のときに倒れられた。49 歳のときには軽かった。56 歳でもう一度倒れられて、今回になったと。

去年、私、駿府城公園でお会いしただけに、親近感があるんですが、本当に健康は自分で管理をする、当たり前だと思っちゃいけないなということを改めて思わせていただきました。そういう健康長寿のまちの社会環境を整えるというのを、今回の訃報に接して、5大構想の中の一つとして力強く進めていかなきゃいけないということが今日のテーマであります。

所与の条件、自然環境は今日もそうですし、冬でも温暖で雪も降らない、割と健康で元気に暮らしやすい、自然環境が整っているの、そこに社会環境としてそういうものを用意すると。その拠点が 6 月 10 日(日)、駿河区の南部図書館の 2 階にオープンする「静岡市地域福祉共生センター」です、という発表です。

これは、駿河区における健康長寿のまちづくりのセンター機能を果たす、「駿河共生地区モデル」として位置付けを致します。

実は、駿河区の皆さんからは、そういう拠点を作ってほしいという要望がかねてからあったんですね。葵区には城東町に「保健福祉エリア」がありますし、清水区にも清水の駅の程近いところに「はーとびあ」があるんですね。それに対して、駿河区には今までなかったので、地域福祉の拠点を駿河区にも整備してほしいということは、ずっと要望をもらっていたところであります。

なので、私どもの気持ちとすると 5大構想ということにも位置づけけてありますので、後発ではありませんけども、葵区や清水区の今の地域福祉の拠点のあの施設プラスアルファの機能を、この駿河区には求めている。駿河区共生地区モデルには後発がゆえに、もっと目標値の高い拠点づくり、5大構想の追い風の中で整備をしていきたいと考えております。

そのキーワードは「深く」「広く」という点であります。「深く」というのはどういう意味かというと、お年

寄り、高齢者を対象にすると、まちづくりセッションを3回終わって、皆さん取材をしていただいて大変ありがたいですけれども、申し上げてますけれども、富士山型でなるべく地域で自宅で元気で長く過ごせるような仕組みづくりをしていく、ということで説明をしているのですが、まず大事なのは、裾野の取り組みだよと。健康の見える化をしないといけない。それは「知」と「食」と「体」だよと。「知」というのは知識の知、社会参加という部分。もうひとつは「食事」、もうひとつは「体」、運動をするということ。そうやって自分自身が健康でいられるような環境づくり、自分自身をそういう風にもっていかなくちゃいけない、その環境を行政が提供していくよと。つまり、健康寿命を延伸するという裾野のプログラムを充実させるよと行って、静岡シチズンカレッジの取り組みを紹介したり、R&R ステーションの取り組みを提供したりしているわけなんですけれども。

その部分で、そこで、この駿河共生地区では何をするかというと、県立大学と連携をして、大学の食品衛生学部もあるわけですので、大学の高度な専門性を活かした健康講座等の学びの場を提供していきたいな、と思っておりますし、また、高齢者の皆さんが元気に活動できるボランティア活動のためのグループ支援の拠点、だから健康寿命を延ばすというための拠点であるということが一つだし、もう一つ、さらに言うと、また、高齢者の皆さんが、元気に活動できるボランティア活動のためのグループ支援の拠点。だから、健康寿命を伸ばすというための拠点であるということが一つだし。もう一つさらに言うと、要支援・要介護になった時、一人暮らしでも、この地域、ちゃんと医療と介護の連携ができていて、専門職同士が連携できていて、「大丈夫だよ」という環境を作るということが高齢者を対象にした「深い」部分ですね。

もう一つは「広く」という部分で、高齢者だけじゃない、「共生」というキーワードの中で、子育て支援の拠点でもありたいというふうに思っています。

すでに「おひさま」という待機児童園が、あの地区に立地しております。子育て支援センターもこれからつくっていく。近々、これは教育委員会が主導して、適応指導教室も軌道に乗っていく。それから、児童発達支援センターも作っていく。つまり、ここに子育ての関連地域、子どもたちがすくすく育つような、そういう子育て関連施設を集積していくということにも活用していきたいな。つまり、お年寄りだけでなく、多世代の交流も目指していく、そんな地域、だから、ママ友ミーティングなんかをここでやっていただいてもいいですし、自治会活動に活かしてもらってもいいですし、つまり、元気な高齢者をはじめとした子ども達とか、子育て世代とか、若者とか、女性とか、障害を持った方々、あらゆる市民の皆さんがお互いに支え合い、その人らしい人生を住み慣れた地域で送る、そんな拠点として、駿河共生地区モデルをこれから育てていきたいなという私の志であります。

こんなことで、6月10日に開館をして、オープニングセレモニーを予定していますということが、今日の発表でありますので、実務的なことについては、その後、広報課長の方から補足をしていただきたいと思います。以上です。

## 【司会】

ありがとうございました。

それでは、6月10日のオープニングセレモニーについて、お知らせをいたします。

開館日になりますが、この時には、施設の愛称も同時に発表いたします。この愛称は、センターの近くの南部小学校や南八幡幼稚園の児童・園児の皆さんをはじめとして、200人を超える市民の皆様方から応募をいただきました。セレモニーでは、愛称を提案いただいた方を表彰いたします。さらにですね、オープニングイベントとしまして、人口問題に造詣が深い静岡県立大学の鬼頭宏学長、さらに、国からは、まち・ひと・しごと創生本部事務局の唐沢剛地方創生総括官をお招きしまして、市長を含めた3人で健康長寿のまちづくりをテーマに、座談会を開催いたします。そちらの方も是非よろしくお願ひしたいと思ひます。以上でございます。

それではただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願ひしたいと思ひますがいかがでしょうか。

**【市長】**

お手元の配付資料で、駿河共生地区の「イメージ」というA4縦紙、これが要領よく、このことについて、まとめてくれているというふうには思っていますので、よろしくお願ひします。

**【司会】**

いかがでしょうか。また、細かいことは、所管課も来ておりますので、お問い合わせいただきたいと思ひます。

それでは次に代表質問に移ります。幹事社さん、お願ひしたいと思ひます。

**【幹事社・朝日新聞】**

国会とか賑わせていますが、市長はもう8年目ですね。

市長になられてから総理秘書官に陳情したことがあるかという点と、もしあった場合、日時、場所、やりとり等、随員の職員の方が記録されたことがあるのかどうかお聞きします。

**【市長】**

ありません。

**【幹事社・朝日新聞】**

今度は、総理秘書官ではなくて、例えば、国交大臣だとか次官、局長、これらの方に市政をめぐって陳情されたことがあって、その時は、さつきと同じように日時、場所、やりとり等、随員の方が記録されているものなののでしょうか。

**【市長】**

それはもちろんその通りですね。

国の予算の要望というものは、積極的に、私のみならず職員共々働きかけをしておりますし、当然、その時の記録というのは、職員がやっております。

**【幹事社・朝日新聞】**

ありがとうございました。ラストですが、加計学園問題をめぐってですね、愛媛県の中村知事がですね、柳瀬秘書官の名刺を公開したりですね、反論をたくさんなされましたけれども、一自治体の首長として田辺さんはどういう目で、どういうお気持ちで一連の経緯をご覧になっていたのでしょうか。

**【市長】**

中村県知事は自分の職責の中できちんとした主張、県の職員を守っているということは、ガバナンス上は、私は当然だというふうに思っています。

**【幹事社・朝日新聞】**

ありがとうございました。

**【司会】**

よろしいですか。ありがとうございました。それでは、その他に各社さんからご質問がありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

**【司会】**

いかがでしょうか。よろしいですか。

**【市長】**

そんなわけないよね。

**【広報課長】**

SBSさん、どうぞ。

**【静岡放送(SBS)】**

今日から、高等教育の検討会が始まりますけども、改めてその始まることへの市長のお思いをお知らせいただきたいのと、あと、今回、委員の方から意見を募ってそれから方向性を考えていくということで、市がこうだっているのは表に出さないという形でしたけれども、捉え方、見方からしたら消極的なのかなって感じてしまったんですけども、そのあたりをどのように思っらっしゃるのか教えていただけますでしょうか。

**【市長】**

私たち行政を中心に今まで議論を続けてきましたし、また、経済界の皆さんへのヒアリングを中心に、調査も進めていきました。それを前提としてね、今日はこの分野の専門家の方々、本当に全国レベ

ルで活躍されている 15 人の委員の方々にご就任を頂きましたので、その見識をまずは聞かせてもらおうというところから始めたいと思っています。ですので、私とすると、今日は予告編になりますけども、冒頭、なぜ私たち静岡市が今、高等教育の在り方について研究したいと思ったのかという理念の部分、バチっと私から申し上げてきたいなというふうに思っています。

その大きな枠の中で、いろんなあの多角的な委員の皆さんのプレゼンテーションを 2 回に分けて、まずは聴取させていただいて、次のステップに進みたいと思います。

ただ、裏話ですけれども、本当に忙しい方ばかりでありまして、この問題提起を最初にいただいた伊藤元重委員、静岡市の出身ですが、こういう高等機関が必要だよという問題意識をいただいて、私たちも総合戦略の中でそれを検討して、よし、伊藤先生、一緒にやりましょうということで、今日も伊藤先生の日程に合わせて日時を設定したつもりなのですが、やっぱり政府の審議会等々いろいろ忙しい方なので、今日は来られないということなのでビデオメッセージを寄せて頂きました。

本当にこの 15 人の方々を日程調整するというのは、企画課の担当が悪戦苦闘しています。だから、まあいいよと。2回に分けてやろうじゃないかということで、今日前半、次回後半でまずは皆さん方のこの高等教育機関の在り方についてプレゼンテーションをしていただこうと思っております。

#### 【静岡放送】

追加で質問ですけれども、色々な意見が出てくると思うので、これをまとめ上げるのは相当大変なものではないかと思うのですが、そのあたりはどのように進めてらっしゃっていくのかなってということと、市立大学ありきではないということでしたけれども、そのあたりをどう考えていらっしゃるかを教えてくださいませんか。

#### 【市長】

おっしゃる通りです。キーワードは「リカレント教育」だろうと思っています。リンダグラットン教授のね、「LIFE SHIFT」、昨年ベストセラーになりましたし、それが背景になって、このごろ盛んに人生 100 年時代、人生 100 年時代と言われております。皆さんも、あの著書はご覧になったと思いますけども、もうこれからの人生 100 年もあるんだからマルチステージだよと、学んで働いて余命を過ごすということではなくて、いつでも学び直しができる、いつでも働けるという環境を少子高齢化の時代に提供する、そういう意味では学び直しのチャンス、高等教育機関を二十歳前後の若者だけの独占物にさせないようなそういう機関が日本でも成熟した社会として必要なのではないかというリカレント教育を提供する機会という事が一つのキーワードになっていきます。

もう一つは、静岡市というのは、今日、私、冒頭にこれを申し上げようと思っているんですけども、幕末、静岡学問所が設置された、そういう年なんです、4年間、ここに全国の俊英が集まって、それが将来的に明治政府に移管されて、4年間しか静岡学問所は静岡になかったんですけども、開成所になって東京大学になっていったという、非常に教育については足跡を築き上げている都市です。

その明治維新から、静岡学問所ができてからちょうど 150 年の節目ですので、私自身、“まちづくり

は人づくり”ということを常日頃、感じていますので、その教育ということについては重点を置いていきたいということでの、高等教育機関の在り方について幅広く専門家のご意見を頂きたいというふうに思っています。

**【静岡放送】**

なかなか財政が厳しいおり、民間に任せた方がいいんじゃないかという意見もたぶん出ると思うのですが、その辺りはいかがでしょうか。

**【市長】**

これからの議論です。だから、私たちがリカレント教育を提供する社会環境を整備していくにあたって、ゼロベースで皆さん方の専門的なご意見をいただいて、その次のステップでそういう議論になっていくのではないかなと思っています。

**【静岡朝日テレビ】**

今のに関連しまして、前回にも聞いた話で恐縮なんですけど、この議論の中で可能性の一つとして市立大学という話もあると思うのですが、このことについてはいかがですか。

**【市長】**

おっしゃる通りです。けど幅広にね。決め打ちを今の段階で行政がしない、と。つまり、こういう審議会って、もう決まっていて、行政主導で物事を進めるというのが一つのパターンだけど、今回の高等教育機関の在り方というのはそうではないよと。我々は調査をして、それを開示して、ここまでは調べてありますと、そういうことは提供しますが、それをベースにして、人生 100 年時代の地方都市の高等教育機関の在り方いかがか、ということについてまずは幅広い、制約をつけずに、自由闊達に展開をしていただきたいなというふうに思っています。

**【静岡朝日テレビ】**

ありがとうございました。

**【朝日新聞】**

今のに関連して、隣の自民党の市議団の方たちは、先日、抗議書を申し入れられていますけど、その辺、どういうふうになっているんでしょうか。

**【市長】**

申し入れ書をいただきました。今、私が申し上げたこともそういう申し入れ書の趣旨というものを踏まえて、こういうことを申し上げているつもりであります。

### 【中日新聞】

先ほどから大学の話が出ているので、ちょっと関連してお伺いしたいんですけども、当初、市長がやりたいという話をしてから、約 2 年、当初の目途からちょっと出足が遅いのかなと思いますけれども、そこらへん、人口減少がかなり、市長、まちづくりセッションでも自然減の話を挙げてらっしゃったりとか、人口減が如実に出ていの中で、人口減少対策というのはすぐに取り組まなければいけない課題だと思うんですけども、遅れた理由と、これからどんなふうを受け止めてらっしゃるか、それから、どういうふう人口減少対策に取り組むか、これがたぶん、高等教育の在り方という形にはなっていますけれども、それが主眼になると思うんですが、そのあたりを伺いたいと思います。

### 【市長】

高等教育機関の在り方については、人口減少対策というよりも、先ほどから申し上げているリカレント教育の社会環境の提供、その方が大事な優先する問題意識だということを申し上げておきたいと思います。その結果、これが人口減少対策にも資することになれば、それはそれでね、副次的な効果になるんでしょうけれども、人口減少対策も喫緊の対策、中長期的な対策、レベルがあろうかと思えます。喫緊の対策は移住支援とか、いろいろご存じのと通りの施策を矢継ぎ早にやっております。もちろん、このことについては、急がば回れなので、今まできちっ、きちっと調査を積み上げて、そして、満を持して今回、識者の方々に集まっていただく。これだけのオピニオンリーダー、このことについての専門家が集まっていただくのに、我々がちゃんと準備、基礎的な調査を終えていなければ、これはもったいないと思うし、申し訳ないと思うんですね。

だから、我々は我々の準備をしたよと、そして従前に、今、2 年間した上で、今日、集まっていただくということでありますので、これは急がば回れで、ここから始まるんだろうなというふうに期待をしております。

### 【中日新聞】

高等教育の在り方という話から少し離れて伺いたいんですけども、SDGsについて、この間の会見では少し時間がなかったものですから、改めて伺いたいんですが、ややですね、私も不勉強で恐縮なんですけども、SDGsという話を静岡市が始められたのが、唐突に、ここ去年の秋くらいからですか、というような感じの受け止めをするんですけども、改めて SDGsについて、市長ご自身のお考えというか、どんなふう、前から取り組んでらっしゃった部分もあるかとは思いますが、改めてその部分をちょっと伺いたいんですが。

### 【市長】

唐突というイメージを持っていらっしゃるんだとしたら、そう見えてしまっているのかもしれませんが、我々にとっては必然だったなというふうに思っています。もともと 3 次総で「世界に輝く『静岡』の実現」、これから、東京のまちの姿を追いかけるんじゃなくて、ワークライフバランスに優れた世界を意識した都市経営をしていこうというのが、3 次総のミッションだったんですね。

そこに、昨年、政府の方から、我々も国連加盟国としてSDGsに積極的に2030年まで取り組んでいきたいので、かといって、笛吹けど踊らず、国が旗を振っても自治体の協力がなければ日本のSDGs進まないの、そこで政府がSDGsに積極的に取り組む自治体にはいろいろな支援メニューを作るということ、昨年の夏くらいに、政府が発表をされたわけですね。

なので、我々が3次総をやっているときに、ああこれは我々の方向性と一致するということで手を挙げたというわけなので、こうひとつの大きな線になっていったんですね。なので、まったく唐突ではないということですね。

ただ、SDGsの全国的な認知度がまだまだ2%と低いものですから、まちづくりセッションやいろいろな機会を通じて、SDGsとは何ぞやということについて、積極的にPR、啓発をしているという最中です。

まちづくりをしていけば地域経済の活性化っていうことが一番の眼目ですけどね、と同時に各企業だって、自分の企業が儲かるっていうことが一番の眼目じゃないですか。

新聞社であろうと、どこであろうと、企業であればね。私たちがその地域経済の活性化、企業に儲かってもらう社会環境、経済環境を作るっていうのは第一義的な目的です。

でも、企業もそうしている中に、いや、しかし、それが社会のために役に立っているんだよと、公共的な使命を果たしているんだよということが、やっぱりやりがいに繋がってくるわけですね。自分の企業も儲かるけれども、社会に貢献してる、地球に貢献しているということで、例えば、リコーさんなんか特にSDGsにはとても積極的ですし、やっぱりそういうモチベーションをね、社員の皆さん、当事者の皆さんに持ってもらおうというのが大事なんですね。東京ガールズコレクションのW TOKYO、主催会社もそうなんですね。やっぱりファッション・ショーがジェンダーフリーというね、社会に貢献をしているということでブランド力をアップするということですね。

私たち静岡市も、静岡市民も静岡経済を交流人口増やして活性化させていこうとすると同時に、そのことが例えば海洋文化拠点が清水のまちの経済の活性化のみならず、太平洋の海に役に立つ、そういう取り組みをしているんだと。だから、東海大学と海洋研究開発機構と一緒に海洋資源を守るというSDGsの目標のために作るんだという、そういう地球に役に立つという発想ね。市民の皆さんにも共有化しながら、3次総とSDGsを同時的にやっていきたい。そんなふうに私は一生懸命市民の皆さんに伝えていきます。

#### 【朝日新聞】

カンヌ映画祭で是枝監督がパルムドール賞、受賞したことについて、何かお祝いの何か、市長イベント好きだから、なんかあるでしょ。

#### 【市長】

イベント好きだって一言でいわれると。

交流人口を増やす、地域経済の活性化をするためにそういう人が集まる事業をしているということで女性に大変評判の良いシズカンウィークでありますので、今年も三週間に渡ってやりました。



昨日の朝、その朗報が飛び込んできましたので、早速あの海辺のマルシェが行われた清水のマリ  
ンパークでのシズカンウィークにね、そんな発表をしてくれたということですので、良かったなという  
ふうには思っています。

#### 【朝日新聞】

お祝いのなんかこう何でもいいですけど。提灯行列じゃないですけど、何かイベントとかは考えてら  
っしゃるでしょうか。まちは劇場・・・。

#### 【市長】

静岡市は、今そこまで考えていません。実行委員会がね、これからどんなことを、また、今回やっ  
てみて要望されるかということは報告を待ちたいと思っています。直接ね、とにかく日本の作品がパ  
ルムドールを取ったら嬉しいけども、それで提灯行列やるっていう話でもないでしょ。秋にカンヌのリ  
スナール市長が来日されて、静岡にも来るということなのでそこに結びつけたいなというふうには思  
っています。

去年の今頃はね、私自身、夫妻で、カンヌ国際映画祭にご招待いただいて、大変おもてなしいた  
だきましたので、僕もせっかくならば、「万引き家族」のプレミア上映だったら、よくわかったんだけど。  
でもまさにね、あの雰囲気だったんですよ。あの作品一つ一つ終わるとスタンディングオベーション  
がワーと。あの Coppola 監督の「ビガイルド」という作品、「隠された欲望」？というプレミア上映の  
作品を観させてもらったんですけど、あれは去年の監督賞をもらいました。パルムドールには届か  
なかったのですが、私の観た作品はね。

#### 【中日新聞】

まだ進んでないかもしれないんですが、リニアについて伺いたいんですが、知事とそれから JR の社  
長の間で、やや空中戦のような言葉の応酬が飛び交っておりますけれども、静岡市の場合はそ  
の水量の話がメインになってきているので、あれなんですが、市の場合には、道路とトンネルという話  
になってくると思うんですけど、今現状、どういう交渉をしてらっしゃるのかということ、それから  
7 月には、これちょっと直接関係ないですが、市長も井川に行かれてセッションされるということ  
で、当然、その住民の準備の関心事だと思うんですが、どんなお話をされるのか伺いたいと思  
います。

#### 【市長】

なるほど。まず SDGs 上に、この問題を移すと、自然環境の保全と環境の均衡点をどこに持つか  
というのは、非常に難しい課題で、リニアの水資源の問題もそういうところだと思うんですね。  
やはり私どもは、従来申し上げているとおり、南アルプスの自然環境エコパークに登録された大  
きな生物多様性や水資源ということを守っていくという前提の上で JR 東海さんと、今向き合っ  
ているということですので、その今、過程にあるというふうにご理解いただければと思います。交渉の過程

にあるって事ね。

【中日新聞】

負担額とか、そこらへんの水資源の話もあると思うのですが、道路やトンネルの話が一番の住民にとっては関心事だとは思いますが、そのあたりの交渉は今、どんなあたりにあるんでしょうか。

【市長】

交渉中です。  
首傾げたって、相手があることだから。

【中日新聞】

ちょっと質問の仕方を変えるんですが、7月までにいい報告はできそうですか。

【市長】

わかりません。

【中日新聞】

わかりました。

【朝日新聞】

リニアの県道の工事費でトンネルが140億円、それ以外の道幅が狭いところ、それから法面の改修とかですね、数字は出ていなんですけれども、市側としては、全部でいくらか総額かかるかという計算は出しているんでしょうか。

【市長】

我々は、試算は既にしてあります。  
ここでは、まだ公表できません。またね、制度にもよるんですよ。まだまだ実際になると変動があるようです。ので、数字が独り歩きするということは、控えなきゃいけないと思っていますので。何か周辺のことについて、美濃部副市長、サービスの的に答えられることがありますか。

【美濃部副市長】

まさに、市長が交渉中と申しましたとおりですね、あのトンネル以外の部分については、リニアの工事のために、どれくらい良くしないとイケないかという部分をJRさんに出してもらうわけですけども、それがいくら分かということ自体が交渉の中身でございますので、ここではちょっと答えられないということを理解のためにちょっと付け加えておきます。以上です。